









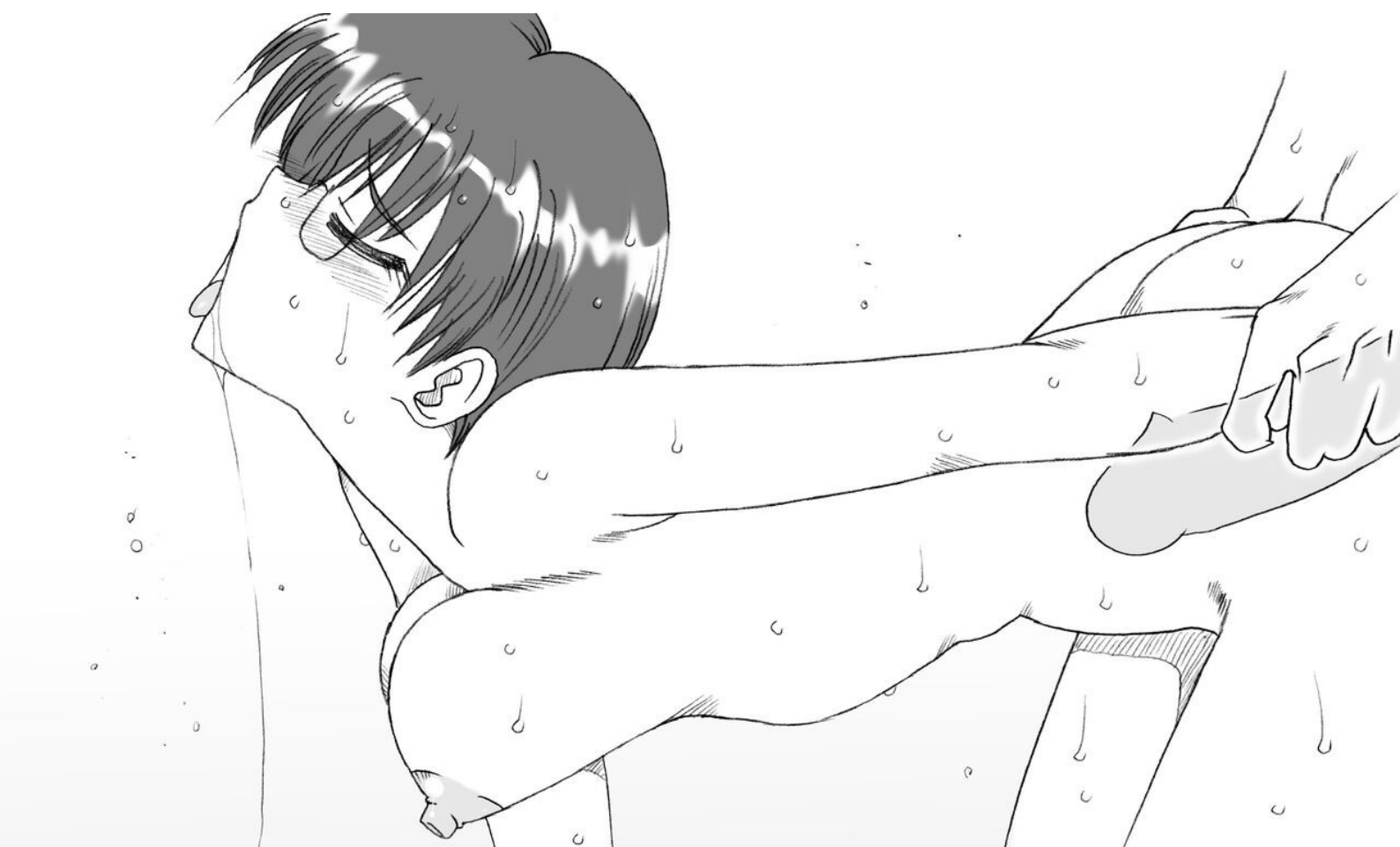












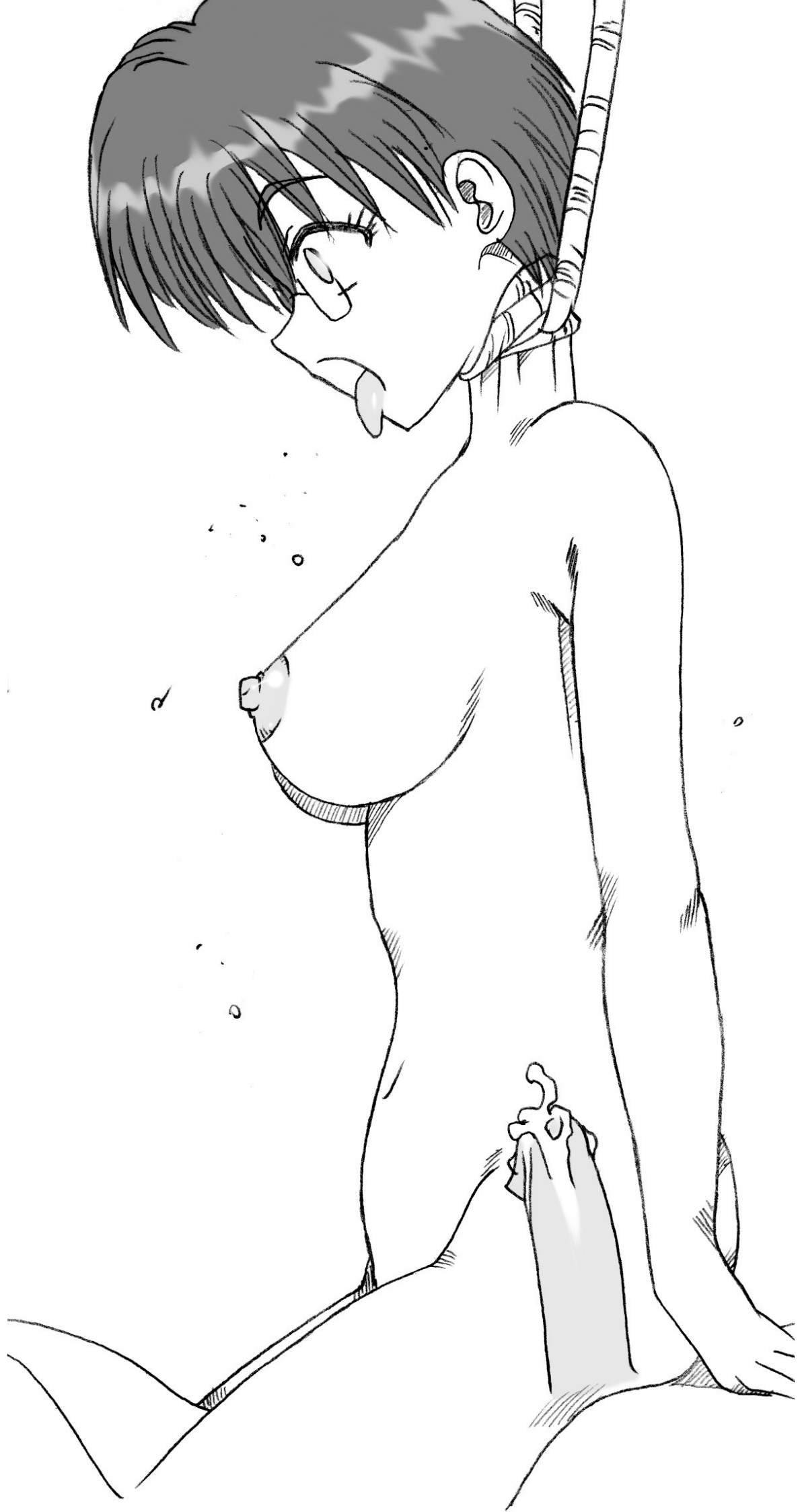




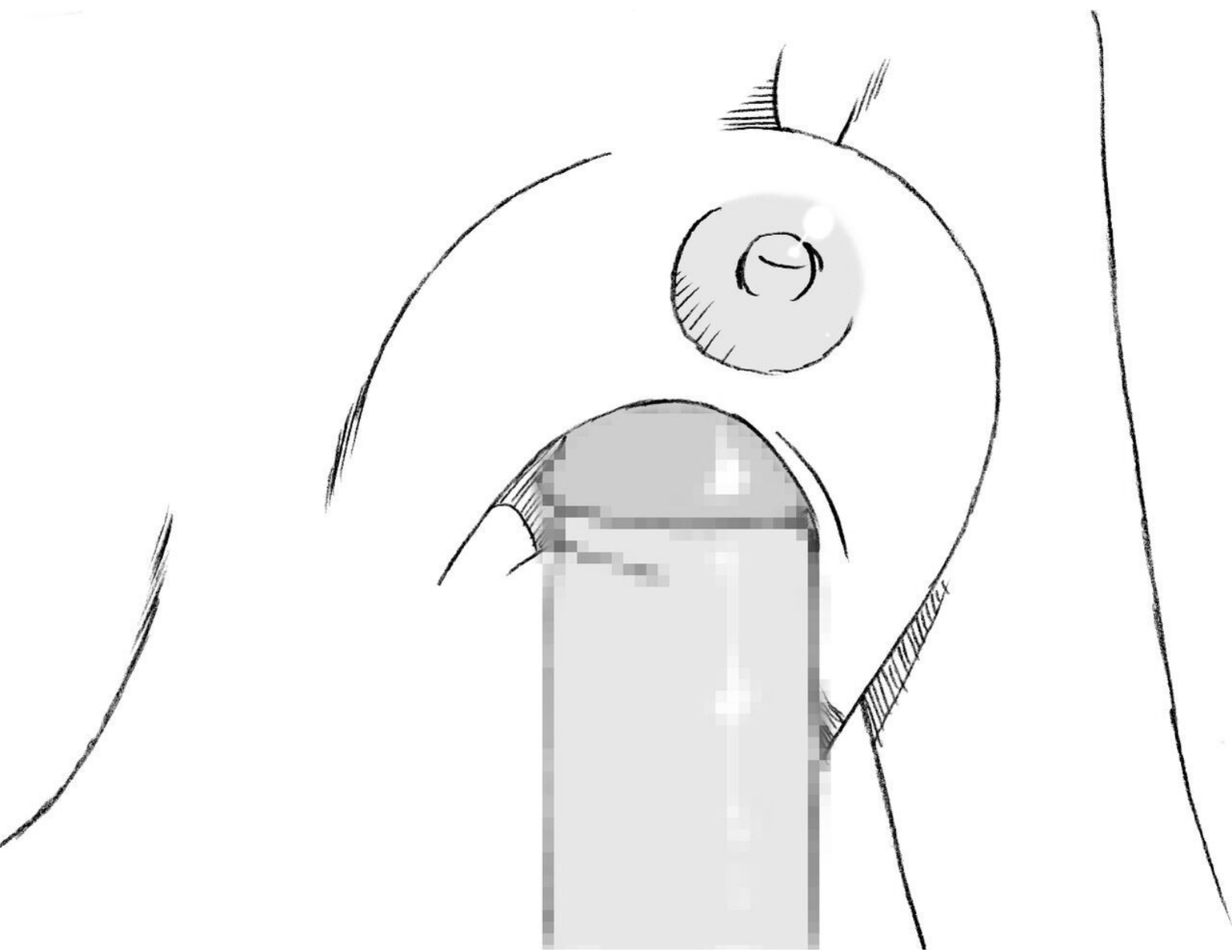




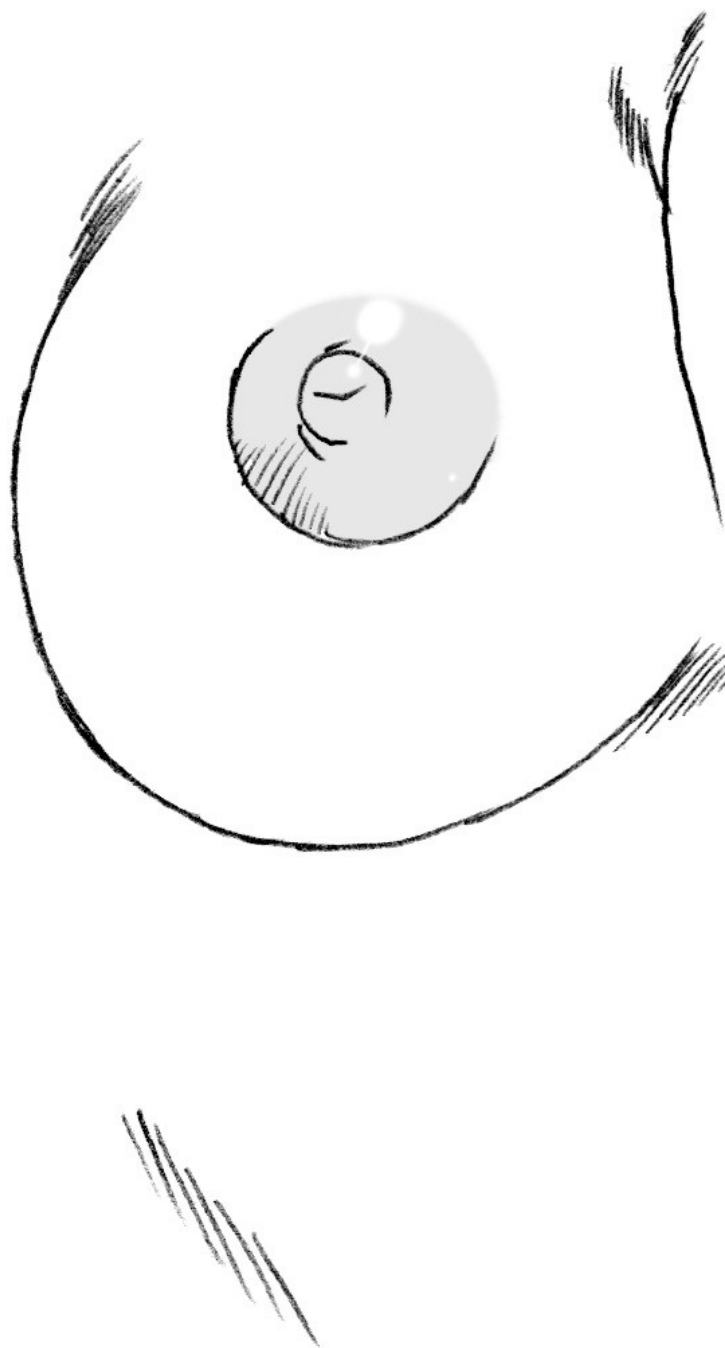
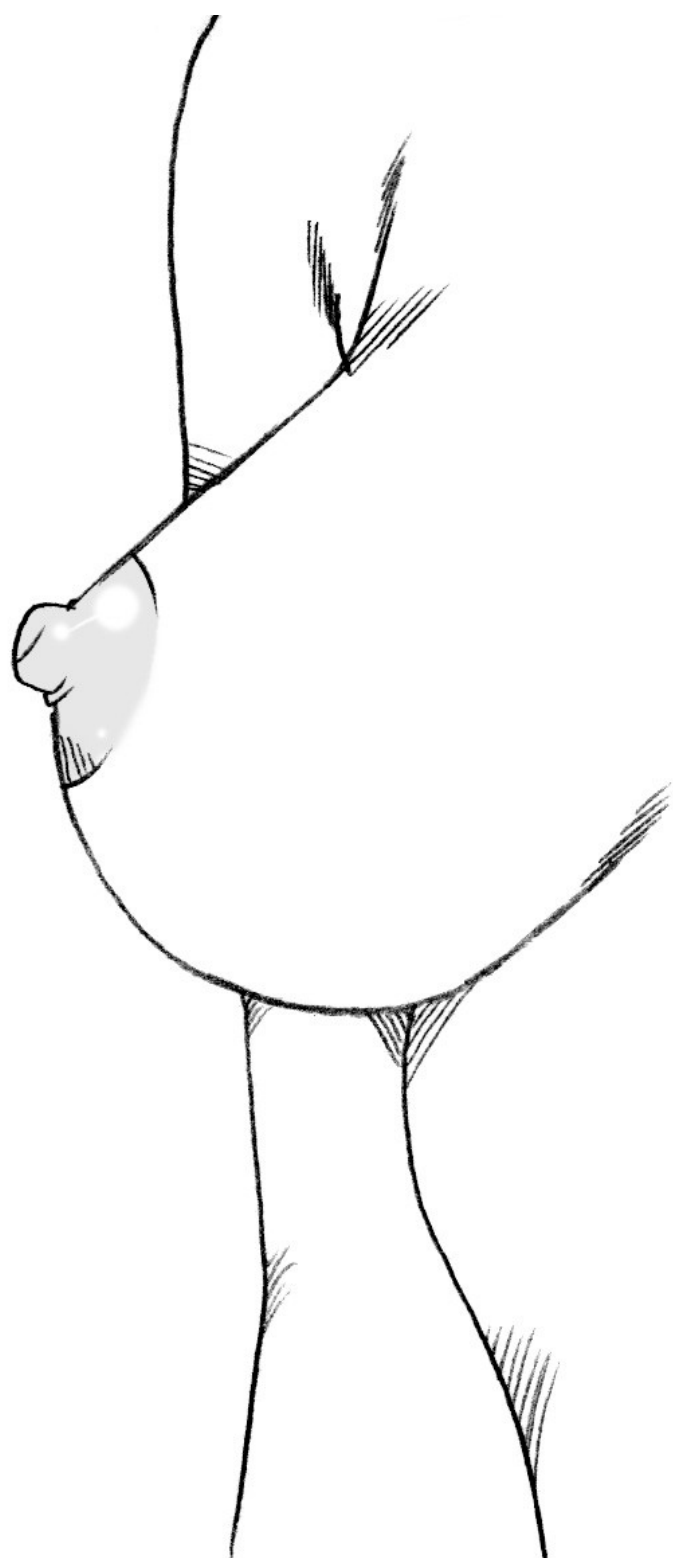


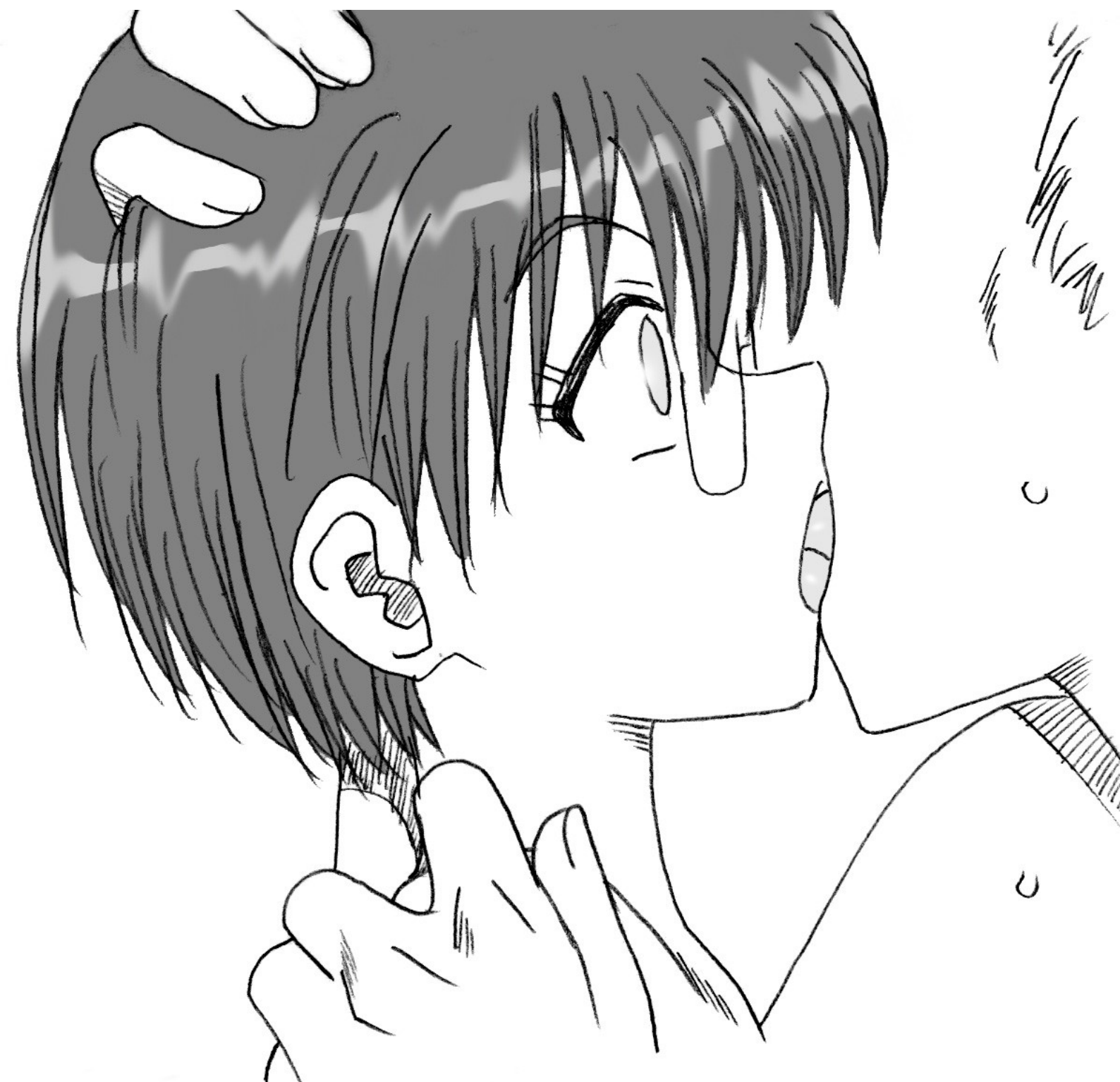




















今日は、休日。彼氏を家に呼び、
自宅デートである。

「公美、私服可愛い」

「…ありがとう」

最近は、彼氏の
恥ずかしい言葉に
素直に喜べる
ようになって来た。

『あなたもカッコ
いいよ。大好き』

公美は、普段は決して
言わない事を、心の
中で呟いてみた。こう
見えても、彼氏の事は
大好きである。

「部屋行く？」

「うん。公美の部屋、見たい」

両親が留守である事は、確認済みである。公美も、
それを承知で呼んだのだ。親に彼氏の存在がバレると
恥ずかしい、というのもあるが、単純に。

『セックスしたいんでしょ？
悟志くん。いいよ。私も
最近、セックス好きになって
来たの。あなたのせい』

公美は、心の中で
そんな事を考え
ながら、彼氏を
部屋に招き入れた。

「んっ……」

部屋に入るなり、即座に抱き合う二人。キスも、いきなり舌を入れるディープキス。公美も、嫌がりもせずに舌を差し出した。

「あ……ん……」

れろれろと、絡み合う舌と舌。キスは結構好きである。当初、セックスは抵抗があったが、キスはいつも舌を絡める淫らなものをしていた。

『悟志くんの舌……』

普通の少女である公美は、やはりラブシーンに憧れたりしていたので、こういった官能的なプレイは大好きである。

むにゅ…
むにゅっ…

『あん……もう、胸を揉んでる……エッチなんだから……悟志くん……でも好き……私を求めているんでしょ？嬉しい……私も……』

公美は、下に手を伸ばし、既に固くなり始めている股間のモノを、その手で弄り始めた。そしてその固さに感動し、さらに激しく舌を動かし、愛情を男に伝えた。

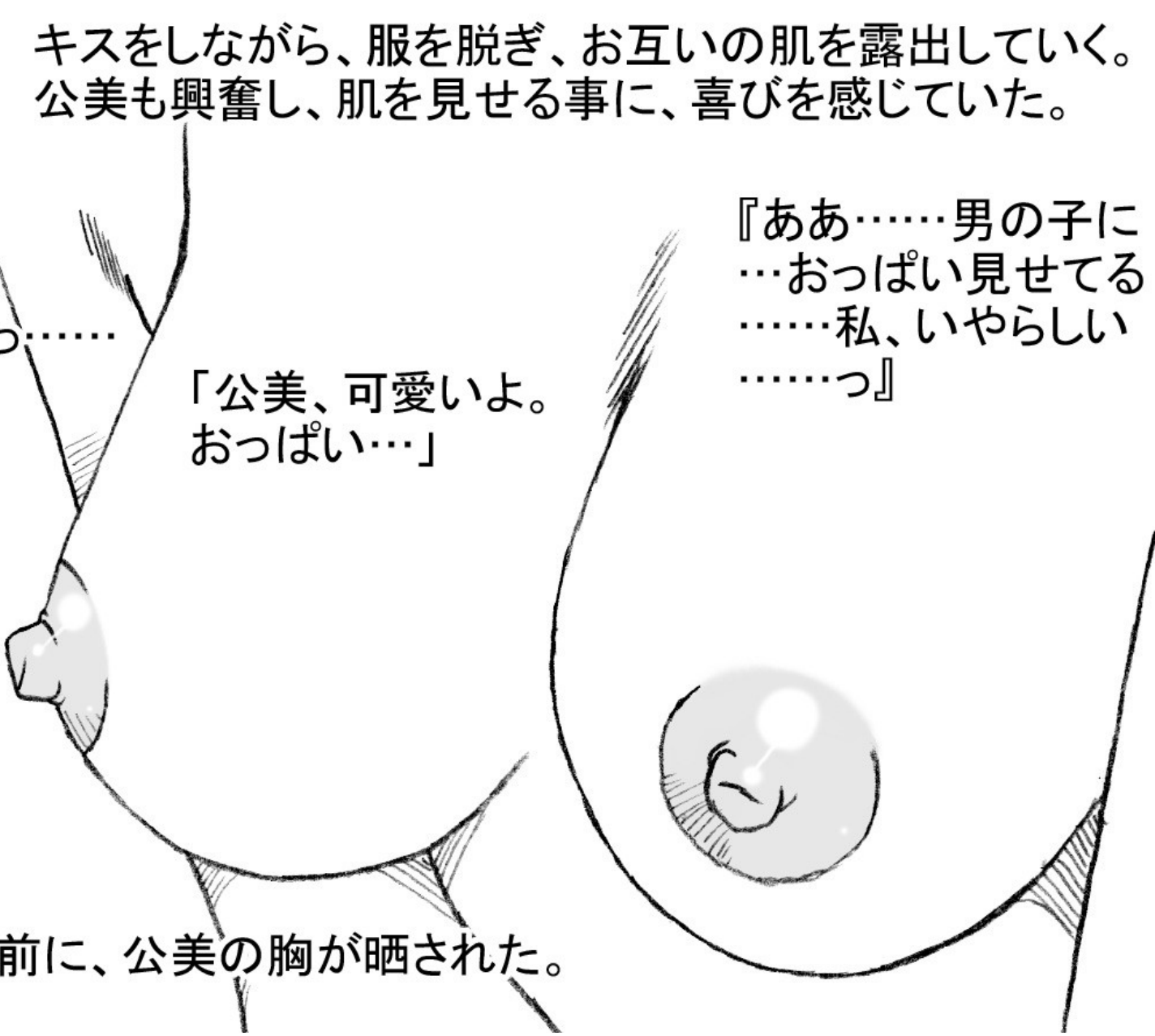
キスをしながら、服を脱ぎ、お互いの肌を露出していく。
公美も興奮し、肌を見せる事に、喜びを感じていた。

ぷるっ……

「公美、可愛いよ。
おっぱい…」

『ああ……男の子に
…おっぱい見せてる
……私、いやらしい
……っ』

男の前に、公美の胸が晒された。



全裸になると、そのまま再び抱き合う二人。もう興奮で、さっきより激しい抱擁となった。貪るようなキス。乳房も、ペニスも、全て直に触れている。固くなった乳首と、ビンビンのペニスの感触に、お互い興奮する。

ぎゅっ…！

「悟志くん……、
っ……、…」

「公美…、
公美…っ」

むにゅ、
むにゅ…っ

公美の尻を、揉みまくる男。
その弾力と、柔らかさ。女
ならではの、丸みを帯びた
大きなお尻。それは、
公美の大人らしさの象徴。

『あ……ああんっ……お尻……触られて……！こんなの……
痴漢よ……？あなただから許すんだからね……！』

公美は、男のペニスを握り、上下にしごきまくりながら、
その熱さと固さに、猛烈に興奮する。公美も、立派な
痴漢行為をしていた。

「ああんっ……、ああ……、悟志く……ん、ああ……
そ……そこ、ああ、き、気持ちい……っ、ああん……！」

「公美……、可愛いよ……！公美……っ！
ほら、俺のこんなに……！ああ……こんな
出入りしてるのが見えるよ……！」

「やあん……
見ないで…」

ぬるっ……ぬるっ……
……ちゅ！……ちゅ！

パン！パン！と音を立てながら、ベッドの上で
激しく交わり合う二人。○校生のカップルの、
愛し合う姿。それは、ただのファッションの恋愛
では無い、恋人同士のあるべき姿だった。

「さっきの……公美の私服、可愛かった……！
もうその場でセックスしたかったよ……！」

「あんなの……普通の部屋着よ……？あ、ああん……！
す……すご、大っき……！あああ悟志くん！！」

嬉しくて、胸を隠さずに見せる公美。男をもっと
勃起させるために。
公美は、結構頑張って
生足が見える服装を
選んだのだ。それが
相手を喜ばせていた
のが嬉しい。もう、声を
抑えられず、ひたすら
喘ぎまくった。

「ああん、悟志くん、
好きよ、好き！ああん！」

普段は照れ屋の公美は、ここぞとばかりに告白。

「やあん……は、恥ずかしい……っ！あ、ああああんっ！！」

パン！パン！と高らかに鳴り響く尻。バックでのセックス。それは、○校生のカップルがやるには高度なプレイだった。女の方が、それに慣れていなければならないからだ。イチャイチャラブするのが好きな公美は、向かい合っただけのプレイは、やはり最初は嫌がった。

「興奮してるじゃないか、公美……！！」

「そ、そんな！事っ！
ああん！悟志くん
だめ！そんな！私！
こんなのっ！あっ！」

恥ずかしさより、興奮と快楽が上回る公美。何せ好きな男とのセックスである。理性より、公美の本能が、『男に犯され、孕まされる』という行為を求めている。

パン！パン！パン！パン！と激しく打ち鳴らされる尻。衝撃が公美の全身を伝わり、太き目の乳房が、前後にぷるんぷるんと揺れる。その、地味な外見とは裏腹に、公美の胸は、Dカップの美乳だった。この大きさに育った理由が、自分でも分からなかった。公美は、つい半年前まで、恋愛なんてした事も無かったのである。しかし、今は分かる。このエロいオッパイは、男を誘惑し、勃起させるためにあるのだと。

『ああん、全部見えちゃう……！繋がってる所も……！お尻の穴まで……！同級生の男の子に……！同じクラスの男の子に肛門見せちゃってるう！こんなの信じられない！いや！恥ずかしいけど！興奮しちゃう——っ！！』

「公美！気持ちいいよ
公美！ああ！凄い！
好きだよ公美！ああ！」

「あああん私もっ！私も好き！
悟志くんの事好きよ！ああ！
大好き悟志くん！ああん
もっと！もっとセックスして！
私を犯して支配してっ！！
ああああ——っ！！」

ぷるっ！ぷるっ！
ぷるんっ！たぷっ！

公美は、普段は大人しく、クールな女子だと自覚していた。しかし、本性は寂しがり屋の淫乱娘。恋をして、それを始めて知った。

「可愛い！可愛いよ公美！もうっ！ああいくよ！いく！イっていい？イクよ！ああ公美っ！あ……………あっ！！」

パン！パン！パン！パン！ぱんぱんぱんぱんぱんっ！！

「あああああんっ！い、イって！イって！ああん悟志くんっ！
イっていいよイってえ！！ああ！！」

びゅくんっ！！
男は、公美の身体を
打ち鳴らしながら、
そのまま絶頂に
達し、射精する。

『ああん好き！好き！好き！好き！悟志くん！もう何も
考えられない——っ！！イって！好きなだけ出して！
私の中にっ！！大好きな悟志くん！ああ——っ！！』

「はあうっ！！
……んあ……
……っ！……
……ああ……ん
……っ」

「好きだよ、公美っ！ああ……っ」

「ああん……わ、私も……っ、ああ……」

びゅくっ！！……ぱんっ……！！
びゅくっ……！！……ぱんっ……！！

びゅくん、びゅくん、という
射精の感触に、幸せを
感じる公美。好きな男を、
セックスの果てにイカせた
のだ。女として、これ以上の
幸せは無い。

ぷるっ……！

射精に合わせ、腰を打ち込んでいく男。その
タイミングに合わせ、全身をぶるっ！ぶるっ！
と震わせる公美。柔らかい乳房が、その度に
ぷるん、ぷるん、と悩ましく揺れた。

ぷるっ……！

「もうすぐ中間だな……。テスト勉強してるか？」

「ううん……まだ」

ベッドの上で裸のまま、普段の会話をする三人。
これも、恋人同士の自然な姿である。

「そう言えば、公美は進路はどうするんだ？」

「ん……」

答えに詰まる公美。以前なら、出来るだけレベルの高い大学に、と考えていた。何せ、それしかやる事が無かったから。将来の夢も、目標も、まだまだ考える余裕は無かった。

『悟志くんと一緒に居られる場所を選ぶ、何て言えないよね。ケッコンとかさあ…』

公美は、今の彼氏である悟志と、一生一緒に居たいと思っていた。恋に夢中な女の子なら、誰でもそうである。

『エロいな公美……。女の子の裸って、どうしてこんなに綺麗なんだろう』

地味なガリ勉女子だと思っていた公美が、実は服の下にこんなグラビア級エロボディを隠し持っているという事実により、男は興奮する。

「……………」

そんな男の妄想にも気付かず、糸纏わぬ素っ裸のまま、公美は恋する乙女のように、男に向けるのだった。

「……ん……、んう……っ、悟志くん……」

汗だくになったので、シャワーを浴びようと、連れだって風呂場へ。普段、家族がいる家の中を、彼氏と手を繋いで、素っ裸のまま歩くのは、背徳感が半端なかった。

ちゅ…

ちゅっ…!

『大好きよ……
大好き、悟志くん
……』

ぷに……
むにゅ…っ

シャワーで汗を洗い流しながら、抱き合い、キスを繰り返す。お互いの身体を弄りながら。男は、公美の胸や尻を、公美は男のペニスを愛撫しながら、淫らなキスを繰り返した。

「はあ……
はあ……
ああん…っ」

「公美……俺……
こんなにボッキしてる
……っ」

男は、もう興奮で、完全に勃起していた。

「……………」

男が、公美の顔をじっと見ている。滅多に見れない、眼鏡無しの公美。

「凄い可愛い。
公美」

極度の近眼である公美は、普段は眼鏡を決して外さない。故に、誰も気付かなかった。その眼鏡の下、美しい顔立ちに。

「セックスするよ、公美」

「……？……うん……」

「こんなに可愛かったなんて…」

公美の頬に、手を触れる男。公美は、きょとんとしながら、男のされるがままになっていた。

公美は、男の真剣な表情にキュンとし、男の意見に、素直に同意した。

親が留守なのをいい事に、男をバスルームまで連れ込み、一緒にシャワーを浴びる公美。普段なら、家族とすら一緒に風呂には入らない。恋をしているので、もう暴走していた。

「ん……悟志くん……」

「公美……、公美……っ」

『あん……私、自分ちのお風呂場に、男の子を…クラスメイトの男の子を連れ込んで……。勿論、裸で……』

案の定、イチャイチャエロエロな行為を始める。背徳感が、公美を興奮させていた。

舌をれろれろと動かしまくりながら、胸を押し付け、ペニスを太腿で挟み込む。

『セックスしよ……？このまま、ここで……。あん……親にバレたら……っ』

色ボケ状態の公美は、もう淫乱そのものだった。

ぬぷ…
ぬぷ…っ

「ああん……おちんちん…
…、超大っきい……」

二人は、我慢出来ずにその場で、繋がり合った。

「あ……ん、そこ……」

浴槽の淵に座り、びんっとそそり
立ったペニスを向ける。その上に、
お尻を近づける。

「入れるよ、公美」

「うん…」

こんな姿勢は初めてだが、
明るいので、狙いは付け
易かった。

「あ……ん」

ビンビンに勃起したペニスは、
公美の中に、ゆっくりと入って
いった。

つぶ……

『公美……入ってるよ……』

『うん……悟志くんの……
私の中いっぱい……、あん、
動く……』

公美の腰が、悩ましく
動く。自分から、腰を
振り、ペニスの感触を
楽しんでいた。以前なら、
考えられない事だった。

『楽しい……、恋愛ってサイコー……！』

公美は、腰を振りながら、何故世間でこれ程恋愛がもてはや
されているのか、それを理解する。こんな幸せで、気持ちいい事、
誰だって夢中になる。恋愛に興味が無かった自分ですら、
そうなのだから。

「気持ち
いいか？
公美」

「ふふ、うん。
気持ちいい……」

くっちゅくっちゅと音を立てながら、
腰を振りまくる。その動きは、
とても○校生とは思えない。
もう、立派な大人の女だった。

『世界中の恋人や夫婦が、
こんな事してるんだわ……
みんな、セックスしようよ。
こんなイイ事、ヤラないと損
……っ！』

ぬぷっ……ぬぷっ……！

公美は、腰を振り、ペニスの
感触を膣で感じながら、
優越感に酔い痴れるのだった。

「公美……！公美！可愛いよ……！ああ……こんな……！公美とセックスしてるっ……！公美の家の風呂場で……っ！」

公美の、あまりのいやらしい動きに、男も興奮し、激しく攻め立てる。

『チンポっ……！
チンポ当たるう！
奥にっ！奥っ！
ああん指が
届かない所っ…
悟志くん！』

「あんっ！あんっ！スゴいっ！あんっ！悟志くんっ！セックス！
セックスしてるよおっ！だ、大好きっ！あんっ！」

ぱん！ぱん！とバスルームに衝撃音が残響して
響き渡る。その音が、二人を更に興奮させていく。

「ああ……！公美……！ああ公美！ああ！可愛い！鏡に映って見えるよ、公美のおっぱい
揺れてるトコ！可愛い！公美のオッパイ可愛い！いくよ！いくっ！おっぱい！ああっ！！」

ぱん！ぱん！
ぱん！

「ああん！自宅のお風呂場でっ！お父さんとお母さんも入ってる
お風呂場で私っ！カレとセックスしてるう！あんっ！いいよイって！
このままイってえ！！ああっ！！あんっ！！っ………！！」

ぶるんっ！ぶるっ！

びゅくんっ！！公美の子宮の入口で、男のペニスが
脈動する。溢れ出る精液。公美は、最高の快樂の
果てに、男と同時イキする。愛し合う男女ならではの
ものだった。

ぴたんっ！ぴたんっ！ぴたっ！

びくっ……びくっ……びくっ……

断末魔の痙攣。首を括られ、宙に吊り上げられた公美。目を見開き、舌を突き出し、涙と涎を胸まで垂らしていた。もう、瞬きも止まっている。

「ああ……可愛い、眼鏡の似合う女子
○生の、首吊り死体……っ」

宙吊りになった公美の目の前には、全裸の男。公美の目の前で、勃起したペニスをしごいていた。

『や、止めて……
助けて……！
何でもするから……お願い、
いやあ……！』

傍らに置かれたモニターには、ついさっき録画したばかりの映像が流れている。僅か、数分前の映像だった。

「意外とオッパイ大きいなこいつ……。結構地味なルックスのくせに」

男は、セーラ一服越しに見える、公美の胸の膨らみに注目する。まだ○7歳の、女子○生だが、公美の胸は、結構同世代の少女と比べても、大き目である。

「オナニーしまくりで成長したんだろ？ 大人しい女ほど、本性は淫乱だからな……！」

男は、ペニスをしごきながら、動かなくなった公美の死体を見て、興奮する。男は、死体愛好家の、ネクロフィリアだった。特に、死んだばかりの女を好む。その特性故に、殺人の常習者だった。現に今回も、帰宅途中の女子○生を拉致し、怯え、命乞いする様子をビデオカメラに収め、殺害するのを楽しんで撮影していた。

『く……苦し……
やめ……あがあ……』

モニターに映し出される公美は、既に地面から爪先が離れようとしていた。

『……っ！——っ！——……っ！！』

『ぎしっ…！ぎし！』

『ああ……いいぜ、
その表情っ！最高！
可愛い女子○生の
くたばる瞬間っ…！
最高に興奮するっ！』

『ぎしぎしっ……！！
ぎっ…ばたばたっ…！！』

映像の中で、苦しみ悶える
公美の姿。首に食い込んだ
ロープが、容赦無く女の細い
首を締め上げ、気道を塞ぐ。
苦悶に歪むその表情が、男を
興奮させていた。

『ほら……！チンポボッキしてるっ！
お前のくたばる姿見て、俺超ボッキ
してるぜっ！ああいくっ！イっちゃうっ！』

「ああ……見てる
だけでまた……
イキそうだ…っ！」

モニターの中と外で、男は勃起し、ペニスをしごき、興奮に射精
しようとしていた。男は、目の前にぶら下がる、物言わぬ屍と
なった公美のセーラー服姿を見ながら、モニターの中の男と
同時に、白い精液を大量に発射した。

びゅるっ……！！びゅっ……
どく……どく……っ

「ああ……可愛い……っ、
すっげー出るっ……超出る……」

男は、動かなくなった
セーラー服の少女を
ガン見しながら、大量の
精液を吐き出し続ける。
赤の他人の射精を目の
前で見せられても、何も
反応しない公美。既に
絶命していた。何を
見せられても、反応など
する筈も無い。

「目の前で男のボッキザーメン見せられても平気か？流石は
今時の女子○生だな。おっぱいでけーし。この淫乱が」

ぶにゅ…

男は、公美のセーラー服の、胸の
膨らみに、指を突き刺す。固い感触。
ブラジャーの布が、男の指を押し
返した。

「さて……どんなオッパイしてんのか、見せて貰うぜ、
公美ちゃん」

男は、公美の服を脱がすために、首を絞めるロープを外した。

「おおっ、意外とでけー……！ やっぱ思った通り巨乳……！」

セーラー服をたくし上げられ、ブラジャーを外される公美。形の良い乳房が、男の前に晒される。

「可愛いオッパイ
だぜ……誰か
好きな男でも
居るのか？ 恋を
すると、女は
オッパイ大きく
なるからな」

むにゅむにゅと、まだ
生暖かい乳房を揉む
男。公美の、○7歳の
女子○生の乳房は、
弾力も柔らかさも
素晴らしかった。まさに、
男を勃起させ、射精
させるためにあるかの
ようなおっぱいだった。

「こんないい
オッパイ、男に
見せなきゃ損
だぜ？ 安心しな、
これから全世界
に見せてあげ
られるんだから
よ……！」

男は、カメラを持ち、公美の乳房を露出した姿を、じっくりと撮影した。

「ほら……っ、セックスしてるぜ公美……！俺達、チンポとマンコで繋がってる……！」

肩を掴み、公美の身体が倒れないように抑える。カメラに公美の顔と胸が、しっかり映る様に。男は、公美を全裸にすると、その死体と、セックスをしていた。

「そう、上手いぜ……、流石はチンポセックスに慣れてるだけあるぜ、大人しそうな顔して、セックス大好き女が！」

ぬぷ！ぬぷ！ぬぷっ！

男は、公美が処女で無い事は、すぐに分かった。女性器など見なくても、その身体の美しさから、男を知っている女である事は明白だったからだ。

「セックスしてる女は、問答無用で綺麗になるよな……！ほら、俺達セックスしてるぜ、騎乗位セックス気持ちいいだろ？いつもやりまくってんだろ彼氏と！この淫乱女子○生がっ！



「なあ、彼氏とこうやってキスハメ
しまくってたんだろ？いかにも
好きそうだな、エロいセックス
……！」

ちゅっ…、
くちゃ……
れろれろ…

男は、瞬きもしない公美の顔を
引き寄せ、強引にキス。突き
出された舌が、男の舌に絡む。

「ほら、ディープキス
してるぜ…公美、チンポ
ハメながらよ……っ」

死体とのイチャラブセックス。ネクロフィリアの男は、それに凄まじい
興奮を感じていた。勃起が高まる。男は、絶頂に達しようとしていた。

「ああイクよ！イクっ！公美！イク！あああ出るっ！あっ！！」

びゅくんっ！！びゅくっ！！

ぎゅうっ！と公美の身体を抱き締めながら、その膈内に、思いっ切り射精する男。華奢な、少女の身体の感触が、男を最高の快楽に誘う。大量に発射される精液。

「っああ……
すっげー出る……！
分かるだろ？
ほら公美……！
お前を愛してるって
……俺のチンポ、
ザーメン出しまくっ
てるぜ……ほらっ、
ああ……！」

男は、呼吸も止まった公美の唇を
貪るようにキスをし、舌を絡め、
ビュルビュルと、射精を繰り返した。

びゅくっ……………
びゅく……ん…
びゅ……………っ

どぶっ……………どくん、どくっ……
とく……とくん……



「ほらっ、カメラ見な、公美！そのカワイイ顔、世界中に見せてやれよっ！オッパイもな…！ほらっ！揺れてるぜオッパイ！」

ぱん！ぱん！ぱん！

射精しても、射精しても、何度も勃起し、公美の身体を犯す男。
ネクロフィリアの男は、完全なるキ○ガイで、射精による
賢者モードが存在しなかった。何度も何度も公美を犯し、
膣に中出し。その様子を、全て録画していた。

「ったく、ホントにエロい女だぜ……こいつ
ホントに女子○生か？ボッキ止まんねえぜ」

相手の身体など気遣わない、激しいセックス。
公美はもう、絶命していた。気遣う必要など
無かった。

「オッパイ揺れまくってるぜ公美…！
そのオッパイで彼氏を何度もビュって
イカせまくったんだろ？このセックス
大好き淫乱女子○生が…っ！！」

男は、カメラに向かって、その揺れ動く公美の乳房を見せ付ける。大きく、形の良い美乳。
若さもあり、その美しさは、まさに女としては全盛期である。大き目の乳首が、死の興奮で
ピンと立ち、男とのセックスに、喜んでいるかのようにだった。



「この……！こんなエロいオッパイ……っ！」

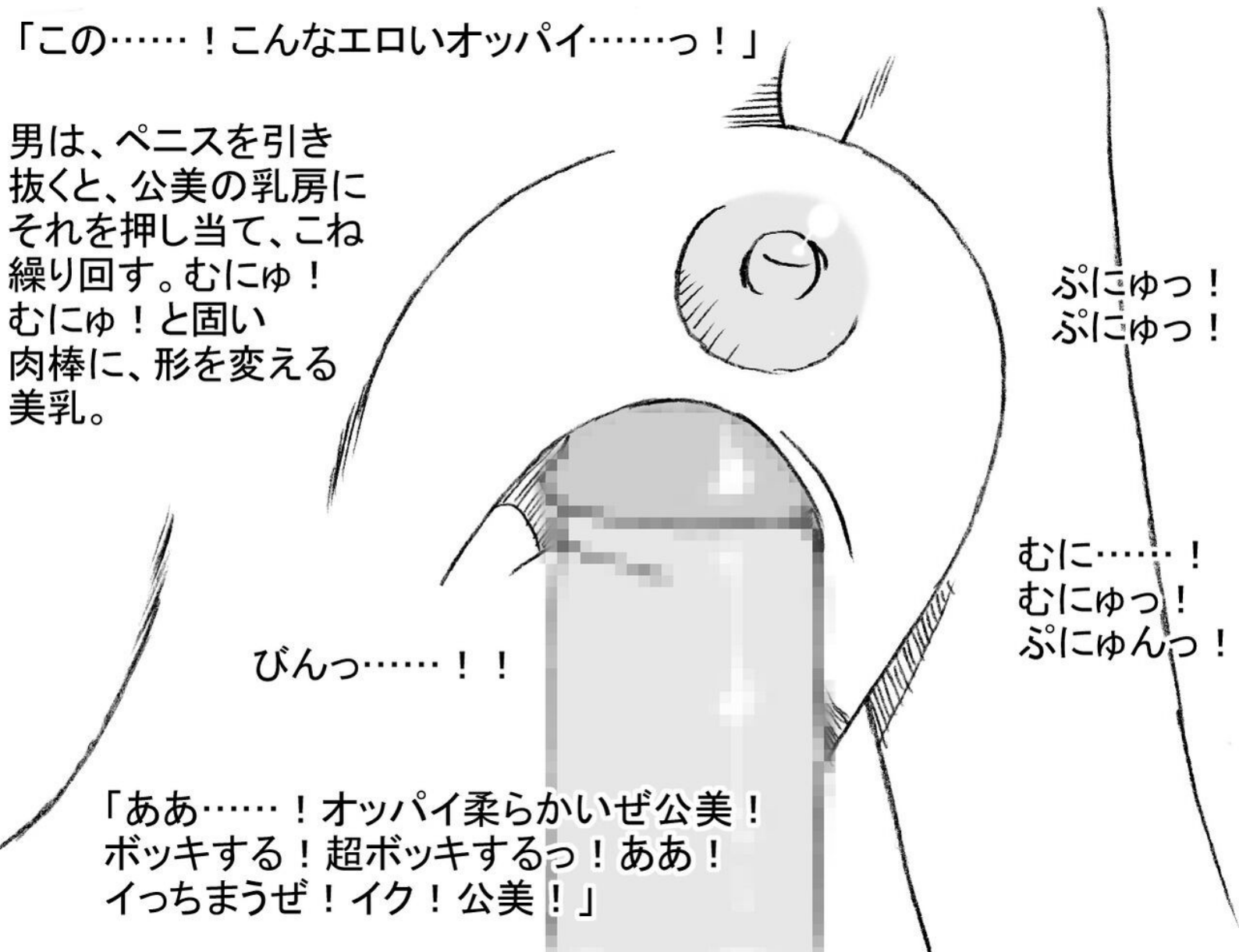
男は、ペニスを引き
抜くと、公美の乳房に
それを押し当て、こね
繰り回す。むにゅ！
むにゅ！と固い
肉棒に、形を変える
美乳。

ふにゅっ！
ふにゅっ！

びんっ……！！

むに……！
むにゅっ！
ふにゅんっ！

「ああ……！オッパイ柔らかいぜ公美！
ボッキする！超ボッキするっ！ああ！
イっちゃうぜ！イク！公美！」



「ああ公美っ！いくよ！可愛い顔にっ！出すよ！精子！ああっ！！」

びゅるっ！！びゅっ！！
びゅるん！びゅっ！！

「可愛い……ああ……
公美、世界一
可愛いよ……！
ああ出る……
止まらない……っ」

男の勃起した
ペニスから、大量に
発射されるザーメン。
公美の顔に、たつぷり
と注がれ、その端正な
顔立ちを、白くどろ
どろに汚す。

どぶっ、
どぶっ……

どろ……

「まだボッキ止まらねー……、お前可愛過ぎだろ……公美。
彼氏もきつとそう思ってただろうな。セックスさせまくったんだろ？」

賢者モードの存在しない男は、性欲に支配され、公美を世界で一番
可愛い美少女だと思っていた。

「公美……」

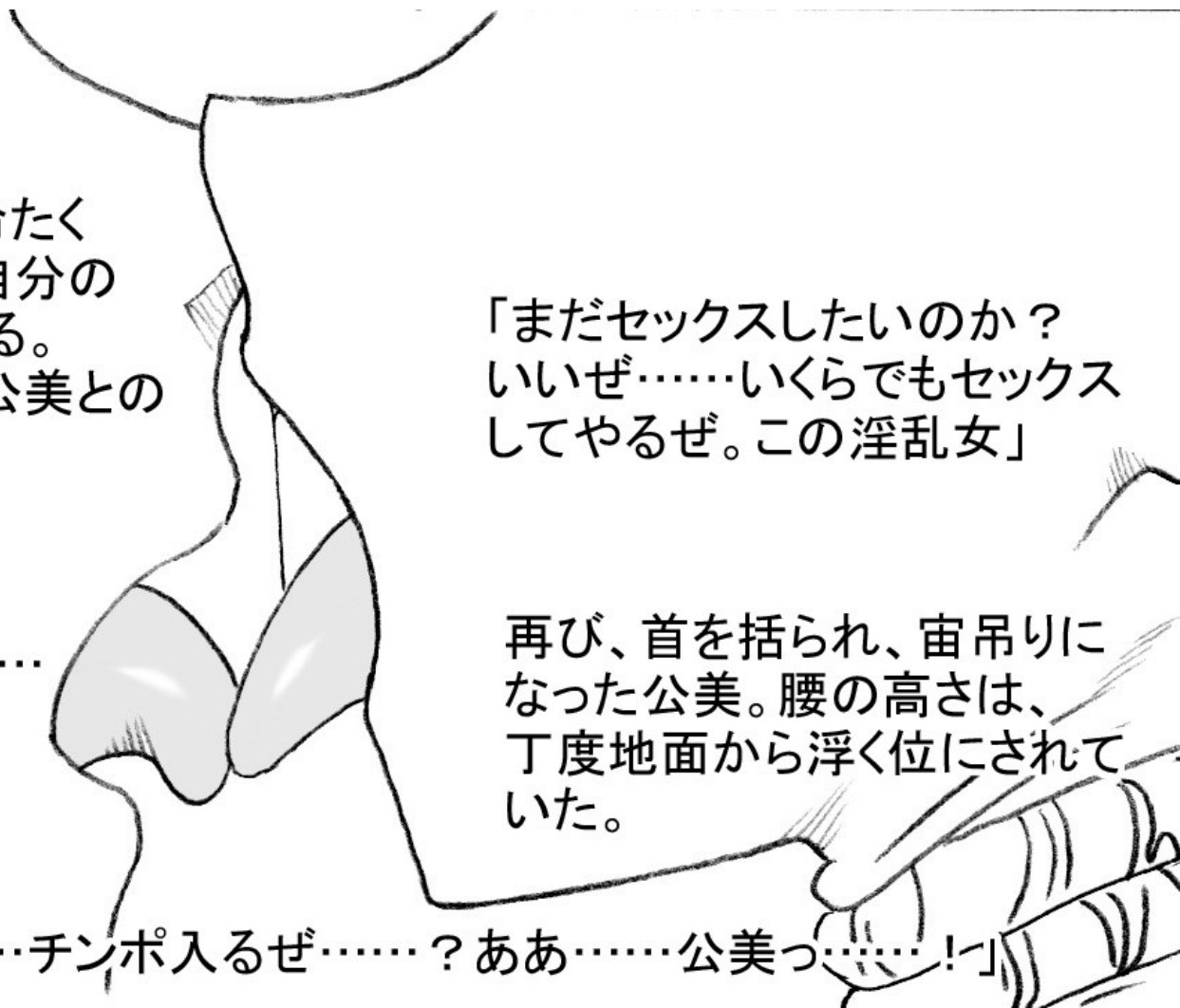
れろれろと、冷たくなった舌に、自分の舌を触れさせる。死体となった公美とのキス。

れろ……ちゅ……

「まだセックスしたいのか？
いいぜ……いくらでもセックス
してやるぜ。この淫乱女」

再び、首を括られ、宙吊りになった公美。腰の高さは、丁度地面から浮く位にされていた。

「ほら……チンポ入るぜ……？ああ……公美っ……！」



「すっげえ可愛い……公美……！」

ぷるんっ……

男は、騎乗で上に乗る、公美の胸を見る。重力に引かれ、美しい形を見せる乳房。男を、騎乗位で射精させ、種付けさせるためのオッパイ。他の動物と違い、正面からのセックスのために進化した、人間の女ならではの、雄を誘惑するためだけに存在する、雌の部位。

「形のいいオッパイって、もう芸術品だよな……！死体でも、いや死体だからこそ興奮するぜ……！！」

「ほらっ、ほらっ！オッパイ揺らしながらセックスする公美、エロくて可愛いぜ！」

下から激しく、公美の身体を揺さ振る男。首で宙吊りになった身体が、がくんがくんと上下する。柔らかい、形の良い乳房が、男の目で見ている目の前で、ぷるっ！ぷるっ！と悩ましく揺れ動く。まるで、愛する恋人の子種を搾り取ろうと、身体を使って誘惑するかのよう。

ぱんっ！ぱんっ！ぱんっ！ぱんっ！

「なあ公美、そんな可愛いオッパイ、彼氏にも見せまくったんだろ？だってそんなに可愛いんだから。オッパイ見せて幸せだったんだろ？大好きな彼氏にオッパイ見せて興奮して濡れてたんだろ？そのエロいオッパイでチンポボッキさせて、セックスしてアンアン喘ぎまくって、腰振りまくってたんだろ？なあ公美！まだ〇七歳のくせにエロ過ぎだぜ！」

男に言われ、その身体を揺らし、乳房を揺らしまくる公美。その身体は、男を誘惑し、勃起させ、セックスを促している。しかし、もう公美は死んでいた。いくらセックスしても、膣内で射精させても、妊娠は絶対にしない。死んでいる女は、妊娠などしないからだ。

「死んでる女とのセックス最高！ああ！またいくっ！またイっちゃまうぜ公美！可愛過ぎて！ああ！出る公美っ！ほらっ！妊娠しなっ！公美！！」



「ああっ！！公美っ！好きだっ！！」

公美の顔と、乳房を、食い入るように見ながら、射精する男。尚も、大量の精液を、たっぷりと流し込んでいく。

「可愛い……
ああ……公美
……っ」

びゅくん！びゅくん！と
射精に痙攣する度に、
ぷるっ、ぷるっ、と
揺れる乳房が、男を
更に射精させる。

「まだボッキするぜ……
こいつどんだけエロいん
だよ……！可愛過ぎ」

男は、そのまま射精
しながら、勃起した
ペニスを更に動かし、
セックスを始めた。
公美は、表情一つ
動かさなかった。
もう死んでいるので、
当然だった。

「ま、いいだろ？お前これから全世界で男にその身体を
犯される事になるんだからな。本望だろ？」

その後も、公美は死体を徹底的に犯され、その様子は
全て録画され、ネットを通して全世界に流される事に
なるのだった。

びゅるっ……
びゅるっ！！

びゅる……
びゅっ……………！！

Reminder that translations are not only welcome,
they are in demand!

提醒一下，不仅欢迎翻译，
他们很抢手！

翻訳を歓迎するだけでなく、
彼らは需要があります！

번역도 환영합니다
그들은 수요가 있습니다!